

令和 7 年度

シラバス（普通教科）

～ 3 年 ～



鹿児島県立伊佐農林高等学校

3 年 普通教科

国 語 ・ ・ ・ ・ ・ P 1

地歴公民 ・ ・ ・ ・ ・ P 3

数 学 ・ ・ ・ ・ ・ P 5

理 科 ・ ・ ・ ・ ・ P 7

保健体育 ・ ・ ・ ・ ・ P 9

外 国 語 ・ ・ ・ ・ ・ P 11

(新課程用)

国語 国語表現	単位数	4単位
	学科・学年	農林技術科 生活情報科・第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1. 実社会に必要な国語の知識や技能を育成する。 2. 思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨いて伝え合う力を高める。 3. 進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
使用教科書・副教材等	国語表現（大修館書店） 国語必携パーフェクト演習（尚文出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特 記事項 他)	考 査
一 学 期	○言葉で遊ぶ	4	○言葉遊びをとおして言葉に興味をもち、語彙を広げることができる。		単 元 の 確 認 テ ス ト
	○言葉と出会う レッスン1 言葉と表記 レッスン2 整った文を書く レッスン3 相手に応じた言葉遣い レッスン4 わかりやすい文を書く レッスン5 文のつながり方 【表現への扉】使える言葉を増やそう／敬語は言葉の身だしなみ／論理的な表現とは？	5	○表記の決まりを意識し、漢字や慣用表現を正しく使うことができる。 ○係り受けや文末表現について理解している。 ○敬語の使い分けについて理解している。 ○話し言葉と書き言葉の違いや、その使い分けについて理解している。 ○和語・漢語・外来語のニュアンスの違いとその使い分けについて理解している。 ○長すぎる文を避け、わかりやすい文にすることができる。		
	○自己 PR と面接 レッスン1 自分を見つめて レッスン2 効果的な自己 PR レッスン3 将来の自分を考えよう	6	○読点を適切に打ち、あいまいな文を避けることの大切さを理解している。 ○接続表現の種類と働きを理解している。 ○文脈による文のつながりを理解している。 ○経験から得たことや学んだこと、他者の意見等から自分の長所などを考えることができる。 ○事実やできごとをふまえて自分の特長を端的に表現し、効果的で印象に残る自己 PR の原稿を書き、話すことができる。 ○就きたい職業に就くために必要なことを、適切な方法で調べ、それをふまえて「将来の自分」について文章にまとめることができる。		
	7				
【課題・提出物等】 休業中の課題、授業ノート、補助教材、テスト訂正、ワークシートなど					
【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。					
二 学 期	レッスン4 志望理由を書こう レッスン6 面接にチャレンジ	7	○志望先についての情報を集め、調べたこと、やりたいこと、自己 PR の三つを結びつけて説得力のある志望理由を書くことができる。	レ ッ ス ン 5 に つ い て は 個 別 対 応	単 元 の 確 認 テ ス ト
	○無人島で生き残れ	9	○適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをし、質問に対して具体的に説得力のある答え方で答えることができる。		
	○読書のひろば ビブリオバトルをしよう	10	○課題を解決するために、建設的に話し合う。 ○積極的に話し合いに参加し、他者の意見を尊重しつつ自分の意見を適切に述べることができる。		
	○メディアを駆使する レッスン1 通信文を書き分ける	11	○読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組もうとしている。 ○自分のお気に入りの本の魅力について聞き手を意識して話すことができる。 ○さまざまな通信文の形式を理解している。		
		12			期 末 考 査

			○相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。	
	【課題・提出物等】 休業中の課題、授業ノート、補助教材、テスト訂正、ワークシートなど			
	【2学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。			
三 学 期	レッスン2 電話を使いこなす	1	○初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解している。	学 年 末 考 査
	レッスン3 電子メールを活用しよう	2	○相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解している。	
		3	○電子メールを活用する上でのエチケットを理解している。	
	【課題・提出物等】 休業中の課題、授業ノート、補助教材、テスト訂正、ワークシートなど			
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。			
	【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。			

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

学習状況を、「知識・技術」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	他者と関わる現実の社会において必要とされる国語の知識や技能について理解を深め、適切に使うことができるようにする。	・定期考査 ・単元テスト ・ワークシート
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、世代や立場、文化的背景を異にする多様な相手と言葉をとおして円滑に相互伝達、相互理解を深め、状況や場面に応じて必要な事柄を正確に伝える力や、相手の意向を的確に捉えて解釈したり効果的に表現したりできる力を身につける。	・定期考査 ・単元テスト ・課題 ・言語活動 ・ワークシート ・ノート
主体的に学習に取り組む態度	考えを形成したり想像したりすることや、様々なことを感じ言語化することで心を豊かにすること、他者や社会の関わりの中で自他の存在への理解を深めることなどの言葉が持つ価値への認識を深め、読書をとおして考えやものの見方を豊かにし、言葉の価値を継承・発展させようという自覚をもち、言葉をとおして他者や社会と建設的に関わろうとする態度を養う。	・授業態度の観察 ・課題 ・言語活動への取組 ・ワークシートへの取組 ・ノート
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・授業中の発問に対してしっかり考えましょう。 ・ノートには板書事項だけでなく、自分で考えたことや疑問に思ったことも記入しましょう。 ・予習をして授業に臨み、授業後は復習をしましょう。(教科書を読む、わからない語句の意味を調べる、など) ・「なぜ」と思ったことは、質問したり、調べたりしましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・教材を忘れないこと。 ・提出物はしっかりと取り組み、期限を守って提出すること。 ・説明を聞く、学習内容を書きとるなど学習活動の切り替えを行うこと。 ・答えを待つのではなく、自分なりに考えること。 ・言語活動に積極的に取り組むこと。
その他	

地理総合	単位数	3単位
	学科・学年	農林技術科・生活情報科 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	社会的事象の地理的見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
使用教科書・副教材等	二宮書店 『わたしたちの地理総合』 二宮書店 『わたしたちの地理総合ワークブックノート』 二宮書店 『基本地図帳』

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特記事項 他)	考 査
1 学 期	地球儀と地図 地図と地理情報システム	4	地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や，地図や地理情報システムを利用する技能を身につけている。		中間 考 査
	国家と領域	5	世界を構成する国家の領域の定め方，地図を通して世界の国々の結びつき方，交通，通信，人の移動の特徴を理解している。		
	世界の地形と人々の生活 ①生活と地形 ②河川がつくる地形 ③海岸地形 ④氷河・カルスト・乾燥地形	6	世界各地で見られる地形は，どのように形成され，人々の生活とどのように関わっているかを理解している。		期 末 考 査
	世界の気候と人々の生活 ①熱帯 ②乾燥帯 ③温帯 ④亜寒帯・寒帯	7	世界各地の気候の特色や生活との関わりについて理解している。		
【課題・提出物等】 ・授業態度・発問評価・提出課題・ノート点検・定期考査					
【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。					
二 学 期	世界の産業と人々の生活 ①農業 ②工業	7	産業の発展が人々の生活にどのような影響を与えてきたかを理解している。		中間 考 査
	世界の宗教・民族・言語	9	宗教や言語といった文化が，民族というまとまりの形成や，人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。		
	多様な生活文化と地理的環境 〔自然環境〕乾燥地域（中央アジア・西アジア・北アフリカ）	10	気候・風土が深く関係して，ある地域の生活と文化とその特徴が形成されることについて理解している。		
	〔産業〕産業技術の発展 （アメリカ）	10	移民とそれを受け入れてきた社会の活力が，世界の人々に影響を与える文化や産業を生み出してきたことについて理解している。		
	〔宗教・歴史〕開発の歴史 （ラテンアメリカ）	11	ヨーロッパ人の進出が人々の生活や文化に影響を与えてきたことについて理解している。		期 末 考 査
〔結びつき〕オセアニア	12	アジアとの交流の深まりが，人々の生活や国の産業に影響を			

			与えていることについて理解している。		査
	【課題・提出物等】 ・授業態度・発問評価・提出課題・ノート点検・定期考査				
	【2学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
三 学 期	自然環境と防災	12 1	自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活のなかにみられる防災・減災への取り組みを理解する。		卒業 考査
	【課題・提出物等】 ・授業態度・発問評価・提出課題・ノート点検・定期考査				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
	【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。				

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

学習状況を、「知識・技術」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・ 定期考査
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存関係、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	・ 定期考査 ・ 課題、宿題 ・ 発表 ・ ノート
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める	・ 授業への参加の仕方 や態度 ・ 課題、宿題 ・ ノート ・ 発表
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・ 日々の授業を大切に、ノートをしっかりとる。 ・ ノートには板書事項だけでなく、自分で考えたこと、感じたこと、疑問に思ったこともメモしておく。 ・ 毎時間最低10分間の復習を行う。 ・ 「なぜ」と思ったことは、質問したり、調べたりする。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・ ノートは毎授業しっかりとること。毎回その都度提出すること。 ・ 教科書、ノートには記名し、授業が始まる前には机の上に準備しておく。 ・ ノート、課題などの提出物は、指定された期日までに指定された方法で提出する。
その他	

(新課程用)

数学 A	単 位 数	3 単位
	学科・学年	生活情報科・農林技術科 3 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 数学 I の内容を復習することによって進路に必要な知識を身につける。 2 数学 A を学ぶことによって、考える力や創造する力を高める。
使用教科書・副教材等	高校数学 A (実教出版) 高校数学 A スタディノート (実教出版) 実践テスト形式ベストステップ数学」 I・A (中部日本教育文化会)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 (学習活動の特記事項、他 教科・総合的な学習の時間・ 特別活動等の関連など)	考 査
一 学 期	数学Ⅰの復習 数の計算・整式・乗法公式 因数分解・無理数・1次方程式 連立方程式・2次方程式 1次不等式・2次不等式 2次関数とグラフ 2次関数の最大・最小 三角比・正弦定理・余弦定理 図形の計量・図形と角度 円の性質・百分率と歩合 濃度と速度・合同と相似 面積・体積	4	これまで学習した内容を総復習することで、基礎的な公式や定理を確認する。基本的な計算問題を解くことによって、進路に必要な問題が確実に解けるようになる。	テキストとして、 ベストステップ数学Ⅰ・A（中部日本教育文化会）を使用する。	中間 考 査
	5				
	6				
	7				期 末 考 査
	【課題・提出物等】 1. 基本計算プリント 2. ベストステップⅠ・A 3. 春休み課題				
	【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
二 学 期	1 章 場合の数と確率 1 節 場合の数 ①集合と要素 ②集合の要素の個数 ③場合の数 ④順列 ⑤組合せ 2 節 確率 ①事象と確率 ②いろいろな事象の確率 ③独立な試行とその確率 ④反復試行とその確率 ⑤条件つき確率 ⑥期待値	7	いろいろな場合の数を、数えあげることができる。樹形図がかけられる。 集合とその要素の個数について理解することができる。 順列の意味がわかり、その計算ができるようになる。重複順列、円順列を理解する。	日常生活におけるさまざまな事例を随時とりあげ、その場合の数を計算する。	中間 考 査 期 末 考 査
		9	いろいろな組合せの総数を計算することができる。また、最短距離の道順など、順列の考え方で色々な場合を計算することができる。		
		10	確率の基本的な考えが理解でき、いろいろな事象の確率を計算することができる。 余事象を利用する確率が理解でき、利用することができる。	日常生活におけるさまざまな事例を随時とりあげ、その場合の確率を計算する。	
		11	独立な試行の意味が理解でき、反復試行の確率の計算ができる。 期待値の意味が理解でき、その値を計算し利用することができる。		
		12			

	【課題・提出物等】 1. 基本計算プリント 2. 問題集スタディノート 3. 夏休み課題				
	【2学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
三 学 期	2章 図形の性質 1節 三角形の性質 2節 円の性質 3節 作図	1 2 3	三角形のさまざまな性質を理解することができる。 円のさまざまな性質を理解することができる。 コンパスと定規を用いて、基本的な図形の作図ができるようになる。	日常的によく見かける平面図形に興味を持たせ、三角形や円の性質を理解する。	学 年 末 考 査
	【課題・提出物等】 1. 基本計算プリント 2. 問題集スタディノート 3. 冬休み課題				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。					

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	- 真剣に授業を受けようとする態度ができたか。 - 教科書、就職問題集、筆記用具がきちんと準備できていたか。 - 課題や提出物を指定された日までに提出したか。	- 授業の出席率 - 授業での発言や板書や学習態度 - 定期考査
思考・判断・表現	- 教科書の例題が理解できたか。 - 公式や定理が理解できるか。 - 学習した内容を説明できるか。	- 定期考査 - 提出物 - 課題問題
主体的に学習に取り組む態度	- 授業中、学習内容の説明を聞き、それに関する発言や質問を積極的にすることができたか。 - 学習内容の定着のため、復習を中心に充実した家庭学習を行ったか。	- 授業態度 - プリントや問題集のとりくみ状況 - 提出物の提出状況
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	授業では、単元の課題に対して、周りの人と一緒に考え、理解する活動を行います。理解できた内容を自分のものとして定着させるために、問題集やプリントでの反復練習が必要になります。授業→家庭学習(復習)→授業…の習慣を確立することが重要です。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	- 教科書、問題集、プリント等授業に必要な物を準備すること。 - 板書事項や学習内容の要点をしっかりと記録すること。 - 提出物は、指定された日に確実に提出すること。
その他	間違いや分からないことをそのままにしていると、ますます理解が難しくなっていきます。その都度、先生や友達に質問したり教え合ったりしていくことが大切です。自分の進路実現を見据え、粘り強く、コツコツと、あきらめずに学力の向上に努めて下さい。

理科 (化学基礎)	単 位 数	2 単位
	学科・学年	農林技術科・生活情報科・第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1. 物質とその変化についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 2. 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 3. 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	
使用教科書・副教材等	・教科書 高校化学基礎（実教出版） ・副教材 高校化学基礎 カラーノート新課程版（実教出版）	

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 (学習活動の特記事項、他 教科・総合的な学習の時間・ 特別活動等の関連など)	考 査
一 学 期	序章 化学と人間生活 これから学習する「化学」と は何だろうか	4	・身近な物質を探究する活動を通して、物質を対象とする学問である化学の特徴について理解する。		中 間 考 査 期 末 考 査
	1 章 物質の構成 1 節 物質の探究	5	・物質の分離や精製などの実験を行い実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付ける。	・硫黄の同素体をつくる実験	
	2 節 物質の構成粒子	6	・粒子の熱運動と温度の関係関係について理解する。 ・原子の構造を理解する。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。	・元素を確認する実験などを行い、単体、化合物について理解する。	
	2 章 物質と化学結合 1 節 イオン結合 2 節 共有結合	7	・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解する。分子からなる物質の性質を理解する。	・分子模型をつくる演習	
	【課題・提出物等】・小テスト ・授業ノート ・GW 課題 ・実験レポート等				
	【評価方法】学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
二 学 期	3 節 金属結合	7	・金属結合及び金属の性質を理解する。	・合金生成の実験 ・身近な結晶の性質を調べる実験	中 間 考 査 期 末 考 査
	3 章 物質の変化 1 節 物質と化学反応式	9	・物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。	・気体発生から 1mol の体積を検討する実験	
		10	・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。		
	2 節 酸と塩基	11			
		12	・酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	・中和滴定の実験	
	【課題・提出物等】・夏休み課題 ・小テスト ・授業ノート ・実験レポート等				

	【評価方法】学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。			
三 学 期	3 節 酸化還元反応 終章 化学が拓く世界	1 2	・酸化と還元が電子の授受によることを理解する。また、酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。 ・化学基礎で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解する。	・電池、電気分解の実験 学年末 考查
【課題・提出物等】・冬休み課題 ・小テスト ・授業ノート ・実験レポート等				
【評価方法】学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
【年間の学習状況からの評価方法】 各学期末における観点別評価を総合して学年末に5段階の評定にまとめる。				

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

学習状況を、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価する。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・実験器具の操作方法を身に付けたか。 ・実験レポートをうまく作成できるようになったか。 ・化学的な探求方法を身に付けたか。 ・自分の結論を的確に表現できたか。 ・授業全般を通して化学の概念や知識を身に付けたか。 ・概念、法則などを理解しているか。	・発問評価 ・ノート提出 ・定期考査 ・小テスト ・提出課題
思考・判断・表現	・「事実（データ）」と「意見（仮説、結論）」の違いをわけて考える事ができたか。 ・見出した問題を分析的、総合的に判断することができたか。	・ノート提出 ・定期考査 ・小テスト ・提出課題
主体的に学習に取り組む態度	・化学的現象についての興味関心を高めることができたか。 ・授業、実験・観察に積極的に参加する意欲を持つ事ができたか。 ・謙虚な気持ちで学ぼうとする態度を持つ事ができたか。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・提出課題
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・教科書やワークの内容について、分からない言葉を質問しましょう。インターネット等で調べるのも良いです。 ・日常生活の中の生物的な事象について、興味を持って観察・分析・探求する視点を持ちましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・農林技術科は専門で扱う物質の構造と性質について、生活情報科は人間の生活や栄養について、専門教科と関連させて理解しましょう。 ・進路や資格を含めた幅広い一般常識が身につきます。しっかり集中して学習しましょう。
その他	・「化学基礎」を通して、「勉強のやりかた」の勉強をしていきましょう。実験できる内容は限られていますが、校内の物質や専門科目とも関わりが深い科目です。しっかり取り組みましょう。

体 育	単 位 数	2 単位
	学科・学年	農林技術科・生活情報科 第3学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて計画的に運動ができる資質や能力を習得する。
使用教科書・副教材等	現代高等保健体育（大修館）・アクティブスポーツ（大修館）

2 学習計画及び評価方法等

（1）学習計画等

学期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の特記事項 他)	考 査
一 学 期	体づくり運動 体ほぐしの運動	4	・ 手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わり合うこと。 ・ バレーボールとバドミントンは、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。 ・ ソフトボールでは、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作、状況に応じた守備などによって攻防を展開できる。 1 技能と体力の関係やそれらを高めるときに気をつけるべき点を挙げて説明できる。 2 技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたと用具の改良やメディアの発達などによる技術・戦術・ルールの変化を説明できる。		
	選択Ⅰ(球技) バレーボール バドミントン ソフトボール	5			
		6			
	体育理論	7			
【課題・提出物等】 特になし					
【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。					
二 学 期	陸上競技	9	・ 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを十分高めること、長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。 ・ ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てて取り組むこと。 ・ バスケットボールでは、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる。 ・ ソフトボールでは、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開できる。 ・ テニスでは、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。 3 技能がどのようなステップを経て上達するかと練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかを		
	体づくり運動 実生活に生かす運動 の計画	10			
	選択Ⅱ バスケットボール ソフトボール テニス	11			
	体育理論	12			

			挙げて説明できる。		
	【課題・提出物等】 特になし				
	【2学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
三 学 期	選 択 Ⅲ サッカー バドミントン テニス	1	・サッカーでは、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携したうごきによってゴール前への侵入などから攻防を展開できる。		
		2	・バドミントンとテニスでは、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる。		
	体 育 理 論	3	4 体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかとよい動きを支える調整力について例を挙げて説明できる。		
	【課題・提出物等】 特になし				
	【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。					

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

学習状況を、「知識・技術」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容			評価方法
知識・技能	・運動の多様性や体力の必要性について理解しているか。 ・運動の技能が身に付いているか。		・ワークシート ・実技テスト
思考・判断・表現	・課題を発見し、解決に向けて思考・判断しているか。 ・自己や仲間の考えたことを他者に伝えられているか。		・話し合い活動 ・レポート
主体的に学習に取り組む態度	・準備、片付け等仲間と協力して行っているか。 ・健康・安全を確保しているか。		・授業態度
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの……………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C			

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・基本動作をしっかり習得することが、高度な技術へ発展していきます。基本を嫌がらず、正しい構え、正しい動き、正しい操作を心がけましょう。 ・毎時間、自己・チームの課題を振り返り、次時の課題解決につなげるようにしましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・忘れ物をしない。(授業を受けられません) ・遅刻をしない。(チーム編成等周りに迷惑がかかります) ・自分勝手な行動をしない。(けがや事故につながります)
その他	

教科 外国語	単 位 数	2 単位
(科目) 英語コミュニケーションⅡ	学科・学年	農林技術科 3 年・生活情報科 3 年

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容を発展的に扱う科目です。中学校の復習と高校新出を織り交ぜながら、英語の基礎・基本をさらに学んでいきます。 英語を通じて、積極的に人とコミュニケーションを図ろうとするとともに、得た情報や考えなどを的確に理解したり、伝えたい情報や考えなどを適切に相手に伝えたりするための、基礎的な能力を伸ばすことを目標とします。
使用教科書・副教材等	・教科書：VISTA English CommunicationⅡ（三省堂） ・副教材：Prep Englishプレップイングリッシュ〔改訂版〕（旺文社）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など）	
Ⅰ	Lesson1 World Dance Performances	4	・世界各地の様々な伝統舞踊を知り、その由来やパフォーマンスに込められた思いを知る。	・動詞＋目的語＋to do ・疑問詞＋to 不定詞	単 元 テ ス ト
	『Prep English』	5	・基礎的な文法事項の演習 ・不定詞 ・動名詞	・副教材プレップイングリッシュ	
	Lesson2 A Piece of Cake	6	・様々な言語の慣用句は、同じ意味を伝える場合でもその表現は言語によって異なることを学び、言語に対する興味を高める。	・疑問詞で始まる節 ・if で始まる節	期 末 考 査
	※『Prep English』	7	・基礎的な文法事項の演習 ・形容詞、副詞 ・比較表現	・副教材プレップイングリッシュ	
	就職問題にチャレンジ		・過去問を解く。	・プリント	
	【課題・提出物等】 春休み課題，授業ノート，授業で使ったプリント，テスト訂正ノートなど				
	【第1学期の評点方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
Ⅱ	就職問題にチャレンジ	9 10	・過去問を解く。	・プリント	単 元 テ ス ト
	L.3 Quokka		・オーストラリア西部に生息する動物クオッカを通して，生き物と自然環境について考える。	・使役動詞 ・知覚動詞	
	※ENJOY COMMUNICATION！		・入国審査の窓口での表現を学ぶ。	・対話練習	
	就職問題にチャレンジ	10	・過去問を解く。	・プリント	期 末 考 査
	L. 4 Designing Stamps	11	・切手デザイナー玉木明氏の職業への意識と切手デザインを通じた文化の紹介について考える。	・形式主語 it ・形式目的語 it.	
	【課題・提出物等】 夏休み課題，授業ノート，授業で使ったプリント，テスト訂正ノートなど				

	【第2学期の評点方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点の観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
III	L.5 Mont-Saint-Michel	12 1	・世界遺産の「モン・サン・ミッシェルとその湾」。本土からその島へ行く手段を巡る歴史を通じて、景観を守るための人々の取り組みを考える。	・現在完了進行形 ・過去完了形、過去完了進行形	卒業 考 査
	※Take a Break!		・英語の歌を楽しむ	・リスニング	
	【課題・提出物等】 冬休み課題、授業ノート、授業で使ったプリント、テスト訂正ノートなど				
	第3学期の評価点方法】 【三学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点の観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
	年間の学習状況の評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。				

※印は進度上省く場合あり。

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・「予習→授業→復習」のサイクルを習慣化しよう！予習をして授業に臨み、授業中は集中して参加し、授業後は早めに復習をすることです。 ・宅習で音読を毎日するのが効果的です！自然に英文が暗唱できます！ ・単語の暗記が苦手な人に朗報！声に出して発音しながら数回書く、というやり方を取り入れることです。視覚、聴覚、身体感覚が同時に起こることで効果アップです！
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・教科書やノート、単語帳、辞書を毎時間必ず準備すること。 ・授業中は私語をせず集中して参加し、ノートをしっかりとること。 ・聞く、話す、読む、書く、といった学習活動の切り替えをしっかりと行うこと。 ・提出物は自分の力で最大限に取り組み、期限を守って提出すること。

（2）評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているか。 ・その背景にある文化などを理解しているか。	・定期考査、単元テスト ・ワークシート ・発表の内容や仕方
思考・判断・表現	・日常的な話題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとしていることを理解しているか。 ・日常的な話題について、情報や考えなど自分の伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現することができているか。	・発表の内容や仕方 ・定期考査、単元テスト ・ワークシート ・授業態度
主体的に学習に取り組む態度	・コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。 ・誤りを恐れずに、英語を使おうとしているか。	・学習活動への参加 ・授業態度 ・ワークシート

3 担当者からのメッセージ

日本や日本文化への世界的な関心の高まりとともに、訪日外国人の数が平成30年（2018年）にはなんと3000万人を突破しました。日本にいながらにしても外国人と接する機会も出てくるのが予想されます。ジェスチャーを交えながらなんとか英語でおもてなしの気持ちを伝えたいものです。身近な話題から文化に関する話題、現代社会の諸問題に関する話題などを扱いながら、これまで学習した事柄の定着を図りつつ、英語の基礎をさらに総合的に学習していきましょう。